

上 田 勉

2年前の2015年9月5日、全町では初めて避難指示が解除された檜葉町、様々な課題について考えます。

檜葉町「避難指示解除2年」の現実

「人口は、避難指示解除後からしばらくは、月に十数人から数十人単位で増え続け、年度替わりの今年3月31日の集計時には一気に倍近くに増えた。7月31日の集計では1,784人となっている。なお、今年7月末時点での住民基本台帳上の人口は7,215人となっているから、町内居住率は24.7%、およそ4人に1人が町内に居住していることになる。3月31日の集計時に大きく増えたと書いたが、それには主に2つの理由がある。1つは集計方法が変わったこと。それまでの数字は、もともと同町に住んでいた（住民登録されていた）人の「帰還者数」をまとめたものだったが、今年3月31日からは「町内居住者数」となった。つまり、帰還者に加え、転入者等も含めた「実人口」での集計となったため、大きく増えたのだ。転入者（私の1人含む）については、避難指示解除後、同町への転入者は約500人おり、町によると、「転入者の多くは原発で働く人だと思われる」とのことだった。もう1つは、今年4月から小中学校が再開されたこと。現在、同町内の小中学校に通っているのは約100人で、子どもを町内の小中学校に通わせるとすると、子どもとその両親の3人が戻ることになる。町内の小中学校に100人が通っているということは、単純計算で300人が帰還したことになる。（今年3月までは、いわき市の仮設小中学校には約400人が通学していました。内約300人が檜葉町に帰らないで、いわき市の学校に転校しました。）

「議員定数割れ」が意味するもの

任期満了に伴う同町の町議会議員選挙が7月27日に告示され、定数12に対し、立候補を届け出たのは現職9人、元職1人、新人1人の11人。定数割れでの無投票当選が決まった。これは福島県内では例がないという。この結果について、ある関係者は次のように話す。「若い人は『戻らない』という人が多く、そういう人たちにとって、町議がどうこうというのは『関係ない話』になってしまっているのだと思います。一方で、町議選に出ようと思ったら、やはり町に戻ることが前提になります。ただ、現状、戻っている人の多くは60歳以上です。そうした状況で、現職・元職はともかく、新しく町議選に出ようというふうにはどうしてもなりにくい。その結果、定数割れになったのだと考えられます」（実際に、議員・行政区長・役場の職員も町に戻っていない人がいる）

果たしてどのくらいの町民が帰還するか？（上田案）

福島第一原発から30km圏内	南相馬市小高区・檜葉町	35%～45%
20km圏内	浪江町・富岡町	25%～35%
10km圏内	双葉町・大熊町	15%～25%

【ほっつあーれ 2017 盆楽祭 (檜葉町)】



【私でも町議会議員になれたのでは 1人欠員の町議会議員選挙 (檜葉町)】

